

3 深い学びにつながる「問い」 見通し・振り返り学習がしやすい構造

①節(章)の構造

節(章)を通して、見通し・振り返り学習がしやすい構造になっています。この構造により、単元のまとまりで課題解決的な学習を行うことができ、「深い学び」につながります。

【例】第2部第2章第4節「北アメリカ州」(p.96～107)

節(章)の問い

▶ 節(章)の始めには、「節(章)の問い」を設置しています。「単元を貫く問い」を明示することで、見通しをもって課題追求学習に取り組めます。

第4節の問い

北アメリカ州では、アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発達した結果、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

学習課題

▶ 各見開きに、「節(章)の問い」に対応した「学習課題」を設置しています。

確認しよう／説明しよう

▶ 各見開きに、「学習課題」に対応した「確認しよう／説明しよう」を設置しています。

学習を振り返ろう

▶ 節(章)の最後には「学習を振り返ろう」を設けています。各見開きで学習した内容を活用して、「節(章)の問い」を振り返る中で、思考力・判断力・表現力を高めます。

p.106「節の学習を振り返ろう」タイトル

第4節 北アメリカ州

北アメリカ州では、アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発達した結果、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

第4節 北アメリカ州

注目する地理的課題：生産と消費の問題

北アメリカ州では、アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発達した結果、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

北アメリカ州の自然環境

北アメリカ大陸とカリブ海の島々

北アメリカ州には、カナダ、アメリカ合衆国の国々と、カリブ海に浮かぶキューバ、ジャマイカなどの西インド諸島の国々があります。アメリカ合衆国の西側には、標高4000mを超える高山が連なるロッキー山脈が、カナダにかけて南北に長く伸びています。東側には、標高1000m程度のなだらかなアパラチア山脈があります。二つの山脈の間には、高原状の大平原であるグレートプレーンズや、北アメリカ大陸で最長のミシシッピ川が流れる中央平原が広がります。ミシシッピ川の西側には、メキシコ湾岸からカナダにかけてプレーリーとよばれる大草原が広がり、世界的な農業地帯となっています。メキシコは、中央にメキシコ高原があり、国土の大部分が高原と山地になっています。

1 北アメリカ州の自然環境

北アメリカ州の自然環境には、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。

国	面積	人口
アメリカ合衆国	9,826,630 km ²	328,291,000人
カナダ	9,984,670 km ²	38,235,000人
メキシコ	1,964,375 km ²	128,129,000人

北アメリカ州の農業

アメリカ合衆国の農業は、西経100度を境に東西でどのような違いがあるのか、図3を見て確認しよう。

アメリカ合衆国が農産物を大量に輸出できる理由について、「広大な土地」と「適地適作」の語句を使って説明しよう。

p.96

3 大規模な農業と多様な農産物

北アメリカ州で、農産物を大量に生産したり、輸出したりできるのは、なぜだろうか。

大規模な農業

アメリカ合衆国の農産物の生産量は世界でも有数で、小麦、とうもろこし、大豆などが広大な土地を利用して作られています。農家は大型機械を使い、少ない人手で、高い生産性を上げています。以前は、多くの場合、農業は家族数人で行われていました。しかし現在は、労働者を雇うなどして、利益を上げることを目的とした企業的な農業経営が多くなっています。このように多くの農産物を生産するアメリカ合衆国は、世界最大の農産物輸出国になっています。

自然環境に合わせた農業

アメリカ合衆国は、地域の気候や土壌などの自然環境に合わせた適地適作の農業が行われています。とうもろこしや大豆などは、西経100度付近から東側の降水量が比較的多い地域を中心に栽培されています。一方、西経100度から西側は、降水量が少なく牧草地として利用され、肉牛の数が盛んです。また、グレートプレーンズなどの内陸部には豊富な地下水があり、これを利用した大規模なかんがい農業がみられ、小麦やとうもろこしなどが栽培されています。カリフォルニア州などの温暖な地域では果樹や野菜が栽培されており、収穫など農作業の多くはヒスパニックの人々によって支えられています。大西洋岸や五大湖周辺では酪農が盛んで、ニューヨークやシカゴなどの大都市に乳製品を供給しています。温暖な南部では、早くから広大な畑で綿花が栽培されてきましたが、現在はその規模が縮小し、燃料用・飼料用の大豆やとうもろこしの栽培が増えています。

世界最大の輸送メジャー

アメリカ合衆国は、日本をはじめ世界の多くの国々が農産物をこの国から輸入しているため、「世界の食料庫」とも呼ばれています。そのため、アメリカ合衆国で早稲が起きて農作物が不作となり、価格が値上がりすると、農産物を輸入に頼っている国々には大きな影響を受けます。アメリカ合衆国には、気象や作付けの情報を提供し、農作物の種子の開発、農産物の流通から販売など、農業に関連することを専門に扱うアグリビジネスを行っている企業があります。その中でも、世界メジャーは主に穀物を扱う巨大企業で、これらの企業の動きは、世界の穀物の流通に大きな影響を与えています。

p.100-101

学習課題

北アメリカ州で、農産物を大量に生産したり、輸出したりできるのは、なぜだろうか。

確認しよう

アメリカ合衆国の農業は、西経100度を境に東西でどのような違いがあるのか、図3を見て確認しよう。

説明しよう

アメリカ合衆国が農産物を大量に輸出できる理由について、「広大な土地」と「適地適作」の語句を使って説明しよう。

見開きの紙面構成の詳しい説明は次のページへ

2 「地理的な見方・考え方」を働かせて説明しよう

思考力、判断力、表現力

世界に与えている影響

農業

- ・プレーリーなどの広大な土地
- ・温暖な気候や地中海性気候の地域
- ・豊富な地下水の利用

生活・文化

- ・違う文化が融れ合っ
- ・ジャズやミュージカルが発達した
- ・サンベルトでは、先端技術産業が発達している

工業

- ・五大湖周辺では、古くから製鉄業や自動車工業が発達してきた
- ・五大湖周辺の石炭や鉄鉱石などの鉱産資源
- ・五大湖周辺の気候が温暖で広い土地や労働力、石油資源が豊富な地域

アメリカ合衆国の特色と世界に与えている影響をまとめた例

ステップ1 この州の特色と詳細を整理しよう

アメリカ合衆国の生活・文化の特色や、世界に与えている影響について、p.106のキーワードや教科書を振り返りながら、図3の①、②の空欄を埋めよう。

ステップ2 「節の問い」への考えを説明しよう

作業1 アメリカ合衆国の産業がどのように発達してきたのか、図3を参考に説明しよう。

作業2 アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発達した結果、地域にどのような影響が生じているのだろうか。地理的な見方・考え方を働かせて、節の問いに対するあなたの考えを、「適地適作」と「大量生産方式」の語句を使って説明しよう。

ステップ3 「発展」持続可能な社会に向けて考えよう

作業1 大量消費の生活様式には、どのような課題があるのか、図3を参考に考えよう。

作業2 持続可能な社会を実現するためには、どのようなことに注意する必要があるか、大量消費の生活様式の課題を踏まえて考えよう。

作業3 グループになり、どのような取り組みを優先的に行うことが大切か、話し合おう。また、私たちにできる取り組みはないか、話し合おう。

私たちにの関わり

日本の資源自給率を、p.156の図2で確認しよう。また、私たちの生活のなかで、大量消費しているものはないか、考えよう。

7 「節の問い」に関連が深い見方・考え方ほかの場所への影響、地域全体の傾向(→巻頭7)

p.107

「学習を振り返ろう」の詳しい説明は本資料p.33-34に掲載

特色 3

3 深い学びにつながる「問い」 見通し・振り返り学習がしやすい構造

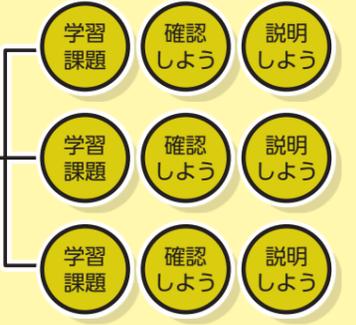
②見開きの構造

各見開きでも見通し・振り返り学習がしやすい紙面構造になっています。各見開きの学習内容は、節(章)の問いを受ける形で学習課題を設置し、展開できるようにしています。

ポイント

節(章)と見開きの「問い」の関係

各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」でつかんだ学習内容の積み重ねが、「節(章)の問い」の追究につながります。



「節(章)の問い」と各見開きの「問い(学習課題・確認しよう・説明しよう)」の関係イメージした図

導入資料

見開きの学習内容の核心をつき、かつ、生徒に「なぜ」を抱かせる資料を掲載しています。



広大な小麦畑での収穫作業(アメリカ合衆国、コロラド州)

大型コンバインを使って収穫を請け負うコンバインクルーの話

5～9月までの間、収穫時期に合わせて契約した農家の畑の小麦を次々と収穫していくんだ。どの農地も自分の現在地が分からなくなるほど広大だから、人工衛星を使ったシステムで位置を確認しているよ。収穫が終わったらコンバインをトラックに積んで、次の畑まで何百kmも移動するんだ。3か月の移動距離は、日本の北海道から沖縄よりも長いんだよ。



コンバインクルーの移動ルートの例(Goode's World Atlas 2010, ほか)



学習課題

見開きの学習でおさえるべき目標を示しています。毎時の学習内容を見通すことができます。

3 大規模な農業と多様な農産物

	アメリカ合衆国	日本
1人あたりの耕地面積(ha)	60.5ha	1.7ha
1人あたりの穀物収量(t)	185.9t	4.8t

アメリカ合衆国と日本の農業の比較(2016年)(FAOSTAT, ほか) 資料活用 アメリカ合衆国と日本の農業の規模を比べよう。

農産物	アメリカ合衆国	フランス	ドイツ	アルゼンチン	その他
小麦	12.0%	9.3%	7.9%	3.4%	31.6%
大豆	42.0%	38.2%	12.4%	6.6%	12.4%
とうもろこし	38.0%	16.6%	14.8%	7.5%	23.1%
棉花	36.4%	12.8%	11.9%	0.6%	28.3%

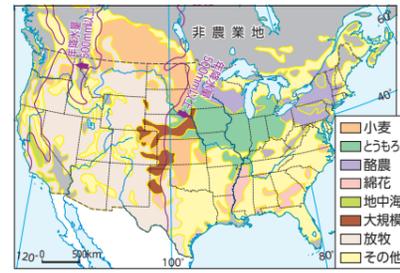
世界の主な農産物の輸出量に占めるアメリカ合衆国とカナダの割合(2016年)(FAOSTAT)

北アメリカ州で、農産物を大量に生産したり、輸出したりできるのは、なぜだろうか。

大規模な農業 アメリカ合衆国の農業は、収穫の様子を見ても、とても大規模であることが分かります。アメリカ合衆国の農産物の生産量は世界でも有数で、小麦、とうもろこし、大豆などが広大な土地を利用して作られています。農家は大型機械を使い、少ない人手で、高い生産性を上げています。以前は、多くの場合、農業は家族数人で行われていました。しかし現在では、労働者を雇うなどして、利益を上げることを目的とした企業的な農業経営が多くなっています。このように多くの農産物を生産するアメリカ合衆国は、世界最大の農産物輸出国になっています。

自然環境に合わせた農業 アメリカ合衆国では、地域の気候や土壌などの自然環境に合わせた適地適作の農業が行われています。とうもろこしや大豆などは、西経100度付近から東側の、降水量が比較的多い地域を中心に栽培されています。一方、西経100度から西側は、降水量が少なく牧草地として利用され、肉牛の放牧が盛んです。また、グレートプレーンズなどの内陸部には豊富な地下水があり、これを利用した大規模なかんがい農業がみられ、

円形農地に囲まれた肥育場(フィードロット)(右)とスプリンクラー(下)とともにアメリカ合衆国、テキサス州) 地下水をくみ上げ、回転するスプリンクラーで散水するので、農地は円形になり、ここで栽培された穀物が肥育場の肉牛のえさになっています。



アメリカ合衆国とカナダの主な農業地域(Goode's World Atlas 2010, ほか)

小麦やとうもろこしなどが栽培されています。カリフォルニア州などの温暖な地域では果樹や野菜が栽培されており、収穫など農作業の多くはヒスパニックの人々によって支えられています。大西洋岸や五大湖周辺では酪農が盛んで、ニューヨークやシカゴなどの大都市に乳製品を供給しています。温暖な南部では、早くから広大な畑で棉花が栽培されていましたが、現在はその規模が縮小し、燃料用・飼料用の大豆やとうもろこしの栽培が増えてきています。

世界の食料庫とそれを維持する巨大企業 アメリカ合衆国は、日本をはじめ世界の多くの国々が農産物をこの国から輸入しているため、「世界の食料庫」とよばれています。そのため、アメリカ合衆国で干ばつが起きて農作物が不作となり、価格が値上がりすると、農産物を輸入に頼っている国々は大きな影響を受けます。アメリカ合衆国には、気象や作付けの情報提供、農作物の種子の開発、農産物の流通から販売など、農業に関連することを専門に扱うアグリビジネスを行っている企業があります。その中でも、穀物メジャーは主に穀物を扱う巨大企業で、これらの企業の動きは、世界の穀物の流通に大きな影響を与えています。

大規模な肥育場(フィードロット)(アメリカ合衆国、テキサス州) 放牧地で1～2年程、放牧された肉牛が、出荷前に集められる施設です。フィードロットでは、栄養が多いえさが与えられ、肉質をよくしてから出荷されます。

穀物メジャー アグリビジネスを行う企業の中でも特に規模が大きく、世界の農産物の流通をコントロールする程の力をもっている巨大な穀物商社のことを、穀物メジャーといっています。

アメリカ合衆国の農業は、西経100度を境に東西でどのような違いがあるのか、図6を見て確認しよう。

アメリカ合衆国が農産物を大量に輸出できる理由について、「広大な土地」と「適地適作」の語句を使って説明しよう。

確認しよう

本文や図版から、学習上大切な事項を書き出す作業です。正しく文章を読む力(読解力)を養い、知識の確実な習得を促しています。

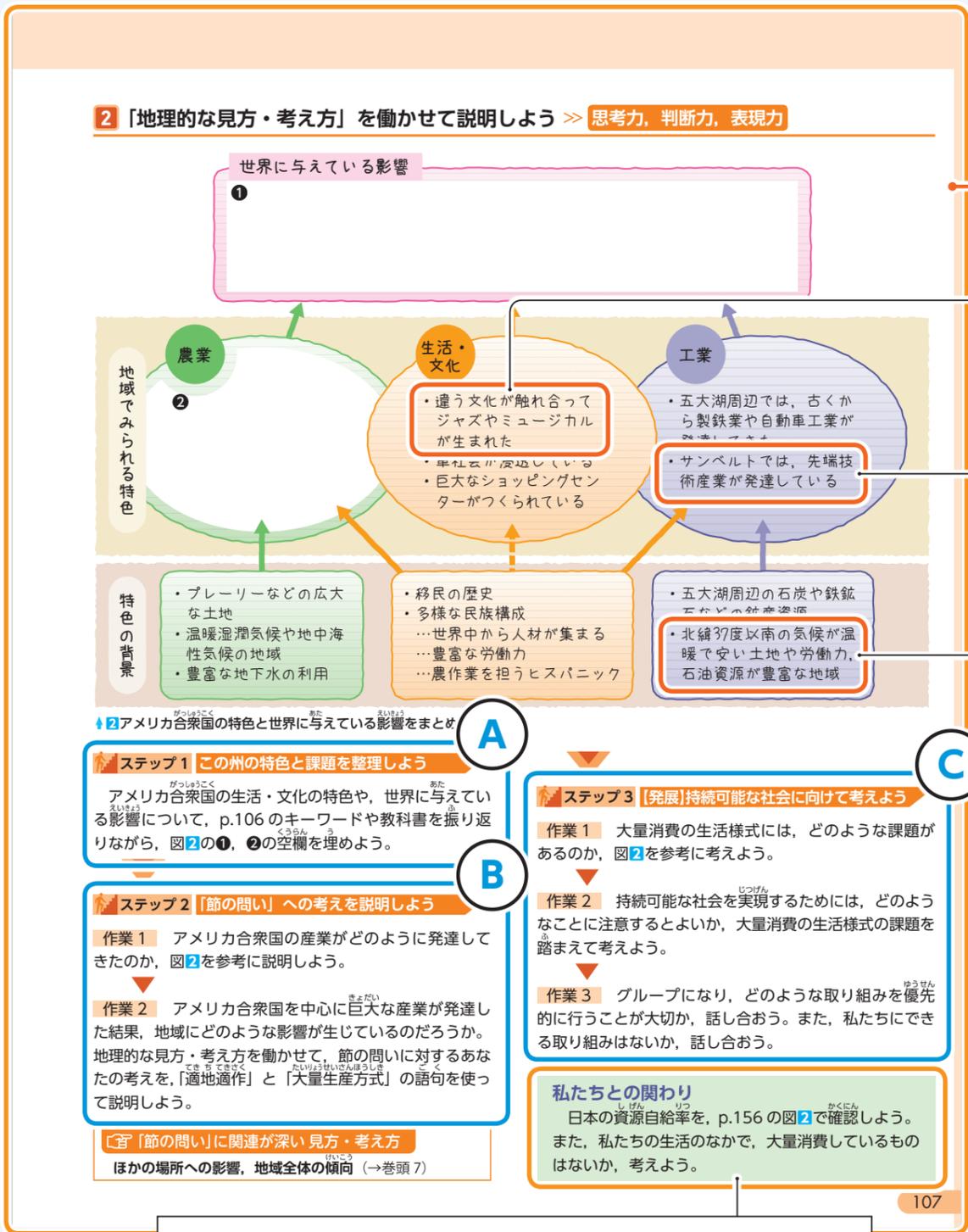
説明しよう

学習内容を振り返り、習得した知識を活用して言語活動につながる問いです。思考力・判断力・表現力の育成を促しています。

次ページ「学習を振り返ろう」へ

3 深い学びにつながる「問い」 見通し・振り返り学習がしやすい構造 ③「学習を振り返ろう」

「節(章)の問い」を受けて、単元末に「学習を振り返ろう」を設置しています。「地理的な見方・考え方」を働かせて課題を振り返り、思考力・判断力・表現力を高めながら、「深い学び」を実現できる構成にしています。



p.107 最後に私たちとの関わりについて、考える問いを設定しています。この問いは、第4部の「地域の在り方」を構想する際のヒントにもなります。

左ページ：知識の確認

右ページ：思考・判断・表現

学習を振り返ろう

▶ 左ページで知識を確認し、右ページで「節(章)の問い」を追究する中で、思考力・判断力・表現力を高める構成にしています。

p.106-107

説明しよう

北アメリカ州に多様な民族が集まったことによって生じた変化を一つ挙げ、説明しよう。

p.99の「説明しよう」

説明しよう

アメリカ合衆国で先端技術産業が盛んになった背景について、「サンベルト」の語句を使って説明しよう。

p.103の「説明しよう」

図2では、各見開きの本文や「確認しよう」「説明しよう」を活用して、地域的特色がまとめられることを解答例の形で提示しています。

作業1の解答例

アメリカ合衆国は多様な自然環境と世界中から集まる豊富な人材を生かして産業を発展させた。など

作業2の解答例

アメリカ合衆国は、適地適作で多くの農産物を生産し、世界中に輸出している。また、工業では大量生産方式のしくみが世界中に普及するようになった。など

作業1の解答例

使用する以上の物が大量に生産されるため、余った物が廃棄されるという課題が生じる。など

作業2の解答例

必要な量を考えて生産を行い、余った物はリサイクルする。など

ステップ 1

州の地域的特色をまとめる

▶ 「節の問い」に答えるために、まず各州の特色をまとめます。

▶ 地域的特色のポイントが端的にわかるよう図解しています。

▶ 生徒の参考となる解答例を掲載しています。

ステップ 2

節の問いに対して自分の答えを整理する

▶ ステップ1での整理をもとに、「節の問い」への自分なりの答えを思考・判断し、文章に表現します。

ステップ 3

節の問いの答えをもとに多角的に課題を考察する

▶ 地域が抱える課題に対して、話し合いなどを通し、改善・解決の道筋を自分なりに考察します。

深い学びへ

特色 4 「地理的な見方・考え方」を育む資料 見方・考え方が働く図版や本文

場所

▶「それはどんな場所なのだろうか?」「それはその場所だけにあるものだろうか?」といった「地理的な見方・考え方」が働くよう資料や本文を工夫しています。

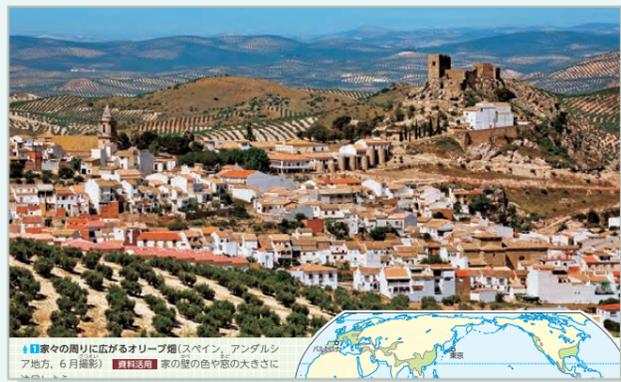
【例】 p.32 「乾燥した地域の暮らし」、p.34 「温暖な地域の暮らし」

場所がイメージしやすく、ほかのページと比較できるため、「地理的な見方・考え方」が自然に働きます。



1 砂漠の中のアオシス(オマーン北部、2018年9月撮影)
砂漠の中の谷が、農地の広がるアオシスになっています。

p.32 1



1 家々の周りに広がるオリーブ畑(スペイン、アンダルシア地方、6月撮影) 資料活用 家の壁の色や窓の大きさに注目しよう。

p.34 1

人と自然環境との相互依存関係

▶「そこでの生活は、自然環境からどのような影響を受けているのだろうか?」「その生活は変化するのであるか?」といった「地理的な見方・考え方」が働くよう資料や本文を工夫しています。

使ったうす焼きパンのような料理がよく見られます。衣服は日中の強い日ざしや砂ぼこりから身を守るために、長袖で、丈の長いものを着ています。また、森林が少なく木材を得にくいので、伝統的な家には、土をこねて作った日干しれんがを利用しています。

p.33 本文 2-5 行目

【自然環境のもとでの生活】



1 日干しれんがで造られた家々(オマーン北部、2018年9月撮影) 資料活用 家の屋根の様子に注目しよう。



1 伝統的な衣服を着た人々(オマーン北部、2018年9月撮影) 資料活用 服のつくりや丈に注目しよう。

p.33 4, 5

【生活の変化】



1 ショッピングセンターにある日本の雑貨店(アラブ首長国連邦、ドバイ、2018年撮影)

p.33 8

空間的相互依存作用

▶「そこは、それ以外の場所とどのようにつながっているのだろうか?」「なぜそのようなつながりがあるのだろうか?」といった「地理的な見方・考え方」が働くよう資料や本文を工夫しています。



p.108 1

【例】 p.108, 112 「南アメリカ州」

南アメリカ州とヨーロッパ州のつながりが、カーニバルを題材に理解できます。

融合から生まれたさまざまな文化 華やかさで世界中に知られるリオデジャネイロのカーニバルは、ヨーロッパとアフリカの文化が南アメリカで融合して生まれた祭りです。カーニバルはもとも、ヨーロッパのカトリックを信仰する人々の宗教行事ですが、アフリカ系の人々がもち込んだ文化が加わったことで、サンバのリズムで踊るにぎやかな祭りに変化しました。アルゼンチンの舞踏音

地理的事象の背景 p.112 本文 16 行目 -p.113 3 行目

文明が栄えていました。しかし16世紀になると、スペインやポルトガルなどのヨーロッパの人々が進出しました。彼らは先住民の文明を滅ぼして植民地をつくり、ヨーロッパの文化を南アメリカにもち込みました。そのため、現在でも多くの国々でスペイン語やポ

p.112 本文 3-6 行目

地域

▶「そこはどのような特徴をもった地域なのか?」「どのような地域になれば良いか?」といった「地理的な見方・考え方」が働く構成になっています。



p.206

【例】 p.206 ~ 215 「近畿地方」

日本の諸地域では、各地方を一つのテーマに沿って、自然環境、生活・文化(歴史)、産業などの切り口で展開することで、地域の特徴を捉えやすくしています。



p.208



p.212

「近畿地方」の展開については本資料 p.21-26 参照

特色 4 「地理的な見方・考え方」を育む資料 充実した地理的技術の作業

写真の読み取り方や地図やグラフの読み取り方など、「地理的な見方・考え方」を働かせる上でも大切な技能を着実に習得できるよう、「技能をみがく」を23テーマ設置しています。学習内容に応じて、適切な技能を習得できるよう、教科書での配置も工夫しています。

写真の読み取り方

▶写真から地理に関する情報を読み取る技能を身に付けられます。写真が多く登場する前の、第2部第1章「人々の生活と環境」の冒頭に設置しています。

主題図の読み取り方

▶主題図の意味や見方に関する技能を身に付けられます。主題図が多く登場する、第2部第2章「世界の諸地域」の学習の前に設置しています。

地形図の使い方

▶地図記号や等高線、新旧地形図の比較などの技能を身に付けられます。地形図は、地域調査を行う際に使用することが見込まれるため、第3部第1章「身近な地域の調査」の中に設置しています。

技能をみがく 8 写真の読み取り方

写真を読み取るポイントを知っていると、実際には行ったことがない場所でも、写真からその土地の気候などの自然環境や、人々の生活の様子などを読み取ることができます。ここでは、市場の写真を用いて、写真を見るときに注目すべきポイントを知り、写真からさまざまな情報を得る方法を学んでいきましょう。

帝国書院撮影

衣服や店の様子に注目
パラソルで強い日差しを避け、半袖で風通しがよさそうな衣服を着ている。

売りに注目
パイナップルやパパイヤなど、南国の果物がたくさん売られている。

この写真が撮られた地域は暑い気候の地域ではないかと考えられる。

▶インドネシアの市場 (フロレス島, 2018年9月撮影)

売りに注目
乾燥した気候に強いらくだが売られている。

衣服に注目
長袖で丈の長い服を着て、頭に布を巻きつけた人が多い。

らくだが飼育されていることから乾燥した地域であり、人々は強い日ざしや砂ぼこりから身を守るための衣服を身につけていると考えられる。

▶アラビア半島のらくだ市 (アラブ首長国連邦 西部, 2018年9月撮影)

帝国書院撮影

やってみよう
写真6を、次のアとイのポイントで観察し、読み取ったことから考えられることを、自分なりに説明しよう。
ア. どのような商品が、どのような状態で売られているか。
イ. 市場に来ている人は、どのような衣服を身につけているか。

▶シベリアの市場 (ロシア, ヤクーツク, 1月撮影)

1章 人々の生活と環境

▶p.27

自社撮影写真により、地理的事象がより端的に読み取れる写真を使用しています。

技能をみがく 主題図の読み取り方

地図には、地形図(→p.134)や日本全国のように、地形や地名、道路などのさまざまな情報を、特定のテーマに偏ることなく描いた一般図のほか、特定のテーマを詳しく描いた地図があり、これを**主題図**といいます。なかでも、統計資料を地図に表したものは、**統計地図**ともよばれます。

地理の学習では、統計資料を読み取るだけでなく、その分布の傾向から、地域の特徴をつかむことも大切です。統計地図には、表したい統計資料の種類によって、さまざまな表現方法があります。また、複数のテーマの統計地図を比較すると、1枚の統計地図からは分らなかったことが読み取れることがあります。

やってみよう

- 図1のCの統計地図を見て、日本企業の進出が多いのはどの辺りか、答えよう。
- 図1のDの統計地図を見て、人口密度が高いのはどの辺りか、答えよう。
- 図1のAとBの統計地図を比較して、降水量の多さと小麦の栽培には、どのような関係があるか考えよう。

さまざまな統計地図

- ① **ドットマップ**…分布地点の数を点(ドット)で表した図です。人口や生産量などの集中の度合いが読み取りやすくなります。
- ② **等値線図**…等しい数値の地点を線で結んだ図です。気温を示した等温線図、降水量を示した等降水量線図などがあります。
- ③ **図形表現図**…円や正方形などの図形やイラストの大きさによって、地域ごとの統計数値を比較できるようにした図です。
- ④ **階級区分図**…地域ごとの比率や密度を、色や模様などで表現した図です。

線が引かれている所に注目すると、南部で降水量が多く、北部で降水量が少ないことがわかります。

階級によって分けられている色に注目しよう。

▶p.46

技能をみがく 技能をみがく一覧(全23テーマ)

1	p.5	地図帳の統計資料の使い方
2	p.9	地図帳のさくいんの引き方
3	p.9	地図帳での緯度・経度の調べ方
4	p.11	地球儀での距離と方位の調べ方
5	p.12	世界の略地図の描き方
6	p.17	時差の調べ方
7	p.24	日本の略地図の描き方
8	p.27	写真の読み取り方
9	p.29	雨温図の読み取り方
10	p.45	グラフの作り方
11	p.46	主題図の読み取り方
12	p.133	ルートマップの作り方
13	p.134	地形図の使い方①～縮尺と地図記号～
14	p.136	地形図の使い方②～等高線と断面図～
15	p.136	新旧の地形図の比較
16	p.137	地形図の使い方③～「地理院地図」～
17	p.139	調査ノートの取り方
18	p.139	聞き取り調査の手法
19	p.152	ハザードマップの読み取り方
20	p.153	防災情報の入手のしかた
21	p.155	人口ピラミッドの読み取り方
22	p.294	展示発表のしかた
23	p.295	ポスターの作り方

技能をみがく 地形図の使い方② ～等高線と断面図～

地形図には、土地の起伏を表すために、地表の同じ高さの所を結んだ**等高線**が描かれています。等高線には、表1のように種類があり、その種類によって間隔が異なります。等高線の間隔が広いほど地表の傾斜は緩やかで、等高線の間隔が狭いと傾斜が急になります。山頂や等高線の途中にある数字は、その場所の標高を示しています。

断面図を作ろう

図3の断面図を完成させ、等高線の間隔と地表の傾斜の関係を確かめよう。

技能をみがく 新旧の地形図の比較

地形図は、明治時代から何年かおきに作られています。そのため、地域の現在と昔の様子を比較する際には有効な資料で、地形や土地利用、道路などが、どのように変化してきたかを確認することができます。

やってみよう

- 2019年の地形図中に赤色で示した道路を、1955年の地形図中で探そう。
- 2019年の地形図中のAで示した範囲において、土地利用が変化している部分に色で着色しよう。
- 1955年と2019年の地形図を比較して、仮定している点や異なる点を挙げよう。

▶p.136

▶p.136

特色 5 SDGsの実現に向けたさまざまな資料

具体的な地域事例を多数掲載

SDGsを紹介した巻頭ページ

▶ 地理的分野の学習全体を通して「持続可能な社会の実現」を意識づけるため、巻頭ページでSDGsに該当する世界の事例を紹介しています。

地域のよりよい発展を目指して

私たちが暮らす日本も含めた世界は、持続可能な社会を実現するために、SDGs (Sustainable Development Goals) とよばれる「持続可能な開発目標」に取り組んでいます。SDGsは、下のように17の目標からなり、世界のさまざまな問題を2030年までに解決するための目標として、2015年に国際連合で採択されました。地域のよりよい発展を目指す世界や日本の例を、見てみましょう。

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. 健全な生活と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. 再生可能エネルギー
8. 働きがい、経済成長、雇用
9. 産業とイノベーションに力をいれよう
10. 人や国、地域をつなぐ
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つぶやみ、責任消費
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさも守ろう
16. 公正な裁判と法の支配
17. パートナリシップで目標を達成しよう

▶ 巻頭1-2

SDGsの概要について説明しています。

13 気候変動に具体的な対策を
17 パートナリシップで目標を達成しよう

SDGsの目標のどれに該当するかを示しています。

(→ p.105, 116)。

この見開きにある写真は、本文ページの資料としても使用できます。

「日本の諸地域」で取り上げた地域事例

▶ 第3部第3章「日本の諸地域」では、各地方の節末に特設ページ「地域の在り方を考える」を設置し、SDGsに関連した地域の取り組みを紹介しています。

地域の在り方を考える

自然環境の再生から資源循環型社会へ

～工業の発展と公害をいち早く経験した福岡県北九州市を例に～

日本では、もともと公害が発生した歴史が浅く、公害を克服した経験を生かし、現在では「環境モデル都市」に認定されています。北九州市はどのようにして公害を克服し、現在に至ったのかをみてみましょう。

1960年代
2015年

▶ p.186

地域の在り方を考える

時代の変化に対応する産業の創出

～新たなものづくりに挑戦を続ける静岡県浜松市を例に～

日本企業の海外進出や、価格の安い外国企業からの輸入が増えたため、一部の工業では国内の生産が衰退し、産業の空洞化が進んでいます。

静岡県の中でも工業が盛んな浜松市では、産業の競争力を高めるために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。

▶ p.234

これらの事例は、第4部第1章「地域の在り方」を構想する際の参考にもなります。

・自然環境の再生から資源循環型社会へ (p.186)

▶ p.292 4

「地域の在り方を考える」掲載箇所一覧 (全7テーマ)

ページ	地方	テーマ
p.186	九州地方	自然環境の再生から資源循環型社会へ
p.202	中国・四国地方	通信網を生かした地域おこしの取り組み
p.218	近畿地方	環境につかわれた産業の発展のために
p.234	中部地方	時代の変化に対応する産業の創出
p.252	関東地方	都市と農村の交流の取り組み
p.268	東北地方	災害からの復興と生活の場の再生
p.284	北海道地方	地域の多様な文化を大切にしている取り組み

地域の在り方を考える

災害からの復興と生活の場の再生

～高台に移転した岩手県宮古市田老地区を例に～

2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)によって、東北地方の太平洋側の沿岸を中心とする地域を、巨大な津波が襲いました。これにより、多くの人命、建物、人々の暮らしの場が奪われました。被害が大きかった宮古市田老地区では、復興に向けてどのような取り組みが行われているのでしょうか。

▶ p.268

5 SDGsの実現に向けたさまざまな資料

防災・環境・共生への意識が高まる工夫

本文
(p.148-149)

日本で発生する自然災害について記述しています。地形や気候などの自然条件と関連付けて理解できます。

4 日本のさまざまな自然災害

日本は、環太平洋造山帯に位置しているため地震が多く、各地に分布する火山の活動も活発です。

学習課題：日本では、地形や気候とどのような関係があるのだろうか。

p.148

本文
(p.150-151)

防災や減災への工夫など、災害への取り組みについて記述しています。災害への備えを知ること、災害時にどう行動すべきか理解できます。

5 自然災害に対する備え

国や地域は、自然災害を防いだり、被害を少なくしたりするために、どのような工夫をしているのだろうか。

学習課題：災害を引き起こす地震や豪雨、台風などの自然現象そのものを止めることはできません。日本では、これ

p.150

技能
(p.152-153)

ハザードマップを用いたシミュレーション学習に加えて、自分たちの地域で生じる災害と避難の方法を考えることで、災害に備える意識を高められるようにしています。

技能をみがく ハザードマップの読み取り方

ハザードマップとは、火山の噴火や津波、洪水など、さまざまな自然災害による被害の可能性や、災害発生時の避難場所などを示した地図のことです。自然災害の多い日本では、都道府県や市区町村など、多くの地域でハザードマップが作成されています。また、「国土交通省ハザードマップポータルサイト」では、全国のハザードマップに関する情報を得ることができます。

津波に関するハザードマップでは、浸水範囲や避難場所などの災害に関するさまざまな情報が、特別な記号や表現で示されています。ここでは、神奈川県鎌倉市の「津波ハザードマップ」を例に、ハザードマップの活用方法を学びましょう。

やってみよう

- 県が想定する地震で津波が発生した場合、長谷駅は何m浸水すると予測されているのか、図2を見て考えよう。
- あなたが図2の★の地点の海岸にいる時に、津波が発生する危険性を感じたら、ア、イ、ウのどちらに避難すればよいか、図2を見て考えよう。

図2が示しているおおよその範囲

県定規模地震による浸水の浸水

凡例

- 10.0m以上
- 8.0m以上10.0m未満
- 5.0m以上8.0m未満
- 4.0m以上5.0m未満
- 3.0m以上4.0m未満

鎌倉市 鎌倉市立図書館 (22.0)

p.152

コラム
(9テーマ)

SDGs11「住み続けられるまちづくりを」に含まれる「防災」に関する内容を、本文・各種コラムなどで取り上げ、生徒が能動的に行動を起こすための第一歩をふみ出せるようにしています。

防災 土砂災害に備えた防災教育

中国・四国地方には、土砂災害危険箇所が約15万箇所あります。これは、地方別では最も多い数で、地形的に水はけがよく、崩れやすい山の斜面が多いことが、その主な原因です。近年では、2014年や2018年に広島・岡山県などが大雨に見舞われ、大規模な土砂災害が発生しました。広島県では、2015年から「みんなで減災! 県民ぐるみ運動」が行われています。県の職員などが小中学校へ出向いて行われる土砂災害前講座では、土砂流や崖崩れの恐ろしさ、それらを防ぐ砂防ダム(砂防ゲム)の機能について、模型などを使って学び、自頭から防災意識を高めています。

りだったので、入り江になっている場所には「満待ちの港」とよばれる港が数多くありました。東西から流れ込む潮流の分かれ目に位置する広島県福山市の瀬の浦は、こうした港の一つです。

p.191

「未来に向けて 防災」掲載箇所一覧(全9テーマ)

ページ	防災
p.97	大平原で発生する竜巻(トルネード)に備えて
p.151	災害時の帰宅困難者対策
p.175	南西諸島での水不足対策
p.191	土砂災害に備えた防災教育
p.207	震災の経験を語り継ぐ神戸
p.223	御嶽山噴火の教訓を伝える火山マイスター
p.239	都市型の水害に備える取り組み
p.257	津波を後世に伝える桜の木
p.273	全員避難を実現した地域ぐるみの防災教育

防災 震災の経験を語り継ぐ神戸

1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震では、震度7に達する強い揺れで多くの建物が倒壊しました。夜明け前の地震だったために、自宅に眠っていた人が建物や家具の落下によるなどして、6000人を超える人が亡くなりました(阪神・淡路大震災)。また、水道や電気、鉄道や道路などの生活基盤が破壊され、都市の生活が長期間まひしました。地震から20年以上たった今、震災後に生まれた若い世代や、新たに地域に移り住んできた人に、地震の恐ろしさ、それに対する備えの大切さ、そして教訓から復旧・復興への道を伝えることが、ますます重要になってきました。学校や職場などで、震災を経験した人が、みずから体験を話し、それを語り継いでいく取り組みが進められています。

三つの地域で異なる気候 近畿地方の気候も、北部・中央部・南部で異なります。日本海に近

p.239

防災 都市型の水害に備える取り組み

近年、集中豪雨や局地的大雨によって、都市型の水害が起こりやすくなっています。都市部では、自然を改変して住宅地や道路を整備したため、地面の多くがアスファルトやコンクリートで覆われています。そのため、雨水が地下にしみこみにくく、雨量が下水道や排水地などの排水処理能力の限界を短時間のうちに超えると、冠水や浸水が生じやすくなります。こうした都市型の水害を防ぐ取り組みの一つに、地下に設置される調水池や放水路などがあります。例えば、埼玉県東部の春日部市内の地下には、総延長約6.3kmにわたる首都圏外郭放水路が建設されました。この放水路は、大雨などであふれそうになった中川などの水を一時的に貯水し、江戸川に排水することで、中川・綾瀬川流域の洪水被害を防ぐ役割を担っています。

花見をを楽しむ観光客が見られる桜半島の花畑(千葉県、南房総市、2019年2月撮影)

持続可能な社会を実現するための参考となる取り組みを紹介した、「環境」「防災」「共生」からなるコラム「未来に向けて」を、全25テーマ設置しています。現代および将来の社会が直面する課題について考えられるようにしています。

環境 地球温暖化による影響と危機

世界の海面はこの100年間で20cmほど上昇し、今世紀末までにさらに数十cm上昇すると予測されています。このことは太平洋にある標高の低いサンゴ礁で起きた島々に暮らす人々にとって、深刻な危機として受け止められています。平均標高が1m余りしかないツバルでは、波による海岸侵食が激しさを増し、大潮のときには冠水の被害が広がるようになりました。そのためツバルでは、国際社会に対して、地球温暖化(=巻頭2. p.105)の原因となる温室効果ガス削減への取り組みを呼びかけています。

p.123

共生 世界とつながる平和記念都市、広島

長崎市とともに第二次世界大戦で原子爆弾の被害を受けた広島市は、平和記念都市として世界の平和を求め、核兵器の悲惨さを発信しています。その活動の一つが修学旅行の誘致です。国内各地から来る修学旅行生は年間30万人を超え、世界遺産に登録された原爆ドームなどを見学したり、被爆者の話を聞いたりしながら、命の尊さや平和の大切さを学んでいます(=巻頭2)。

平和記念式典(左)と「平和への願い」を読み上げる小学6年生(上)(広島県、広島市、2018年8月6日撮影)

p.193

持続可能な社会の実現のために

防災 全員避難を実現した地域ぐるみの防災教育

2000年3月、北海道の有珠山が23年ぶりに噴火しました。このとき、事前に噴火の兆候が観測されたのを受けて、周辺地域に避難指示が出され、噴火前に全住民が避難を完了していました。そのため、有珠山周辺の建物などは大きな被害を受けましたが、一人も負傷者や死亡者が出ることはありませんでした。全員避難が成功した背景には、1977年の噴火直後から、学校などで徹底した防災教育がなされたこと、1990年代にはハザードマップ(=p.152)が作られ、それに基づいて避難訓練が繰り返されるなど、地域住民が火山災害の恐ろしさを十分に理解していたことがありました。現在では、2000年の噴火の被害を受けた建物や道路などは、被災した状態のまま残され、火山活動による災害や、減災の知識を学ぶ場として活用されています。

火山について学ぶ登山ツアーで、1977年の噴火の説明を聞く参加者たち(有珠山、2017年8月撮影)

有珠山とその周辺の地域は、ユネスコ世界ジオパークに認定されています。

p.273

社会科3分野共通の特色

① 3分野の関連を図った10のポイント

社会科3分野(地理・歴史・公民)での関連や、地図帳・小学校との関連を図っています。また、共通で防災・領土・SDGsを重視しています。

1 主体的・対話的な学びを促す「導入」

写真やイラストを効果的に使った導入を設けています。興味・関心を高めるだけでなく、これから学ぶ内容を見通すことができます。

本資料 p.5-12,13,19-20

地理 「写真で眺める南アメリカ州」 教科書p.108-109など



歴史 「タイムトラベル」 教科書p.48-49など



公民 「学習の前に」 教科書p.27-28など



2 単元を貫く「章(節)の問い」

章(節)のまとまりごとに「問い」を設け、見通しをもって学習に取り組みます。

本資料 p.29-30

地理 「節の問い」 教科書p.50など

第1節の問い p.48~63
アジア州における急速な経済成長は、地域にどのような影響を与えているのだろうか。

歴史 「節の問い」 教科書p.94など

第1節の問い p.94~101
ヨーロッパの国々は、なぜ世界に進出したのだろうか。

公民 「節の問い」 教科書p.127など

第3節の問い p.127~142
経済活動を活発にしているために、企業はどのような役割や責任を果たすべきなのだろうか。

3 深い学びに導く「章(節)の学習を振り返ろう」

章(節)を通して得た知識および技能を生かして課題に取り組むことで、思考力・判断力・表現力を育み、深い学びにつながられます。

本資料 p.33-34

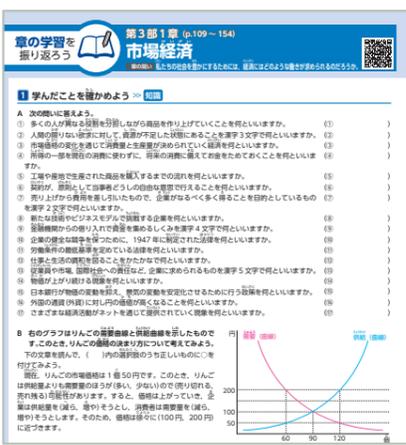
地理 「節の学習を振り返ろう」 教科書p.106-107など



歴史 「節の学習を振り返ろう」 教科書p.146-147など



公民 「章の学習を振り返ろう」 教科書p.155-156など



+α アルファ 地図帳との関連

教科書p.247本文4-13行目

地図帳p.129②

北関東への工場進出と流通の変化
工場の進出は、栃木県や群馬県、茨城県といった北関東にも広がりました。北関東は、もともと繊維工業や航空機の生産が盛んな地域で、その技術や広い土地を活用するために、県や市町村が工業団地を造り、工場を積極的に誘致しました。これらが工場進出の原動力となって、電気機械などの大工場や、大工場から部品の製造を請け負う中小工場も次々と進出し、内陸型の北関東工業地域が形成されました。
現在の北関東工業地域では、電気機械や自動車などの工業が発達しており、関越自動車道や東北自動車道、北関東自動車道などの高速道路の近くに多くの工場が集まっています。自動車関連の工場で



教科書に記述されている内容が、地図帳で図化されています。

4 毎時間の学習における「問い」

章(節)の「問い」を受けて、見開きで「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」を設置し、毎時間で学習の到達点を確認できるようにしています。

本資料 p.31-32

地理

本文ページ
教科書p.100-101など

歴史

本文ページ
教科書p.132-133など

公民

本文ページ
教科書p.141-142など

5 各所で働かせている「見方・考え方」

深い学びのカギとなる「見方・考え方」は、本文ページや章(節)末の「学習を振り返ろう」など、さまざまな箇所で見つけることができます。

本資料 p.33-34,35-40

地理

教科書
巻頭7, p.107など

歴史

教科書
p.12,147など

公民

教科書
p.18-20,156

6 小学校との関連を図る工夫

小学校での既習事項を生かせるよう、問いの文章を工夫したり、小学校の学習事項を提示したりしています。

本資料 p.11-12,25

地理

「小学校・歴史・公民との関連」
教科書p.214など

歴史

「小学校・地理・公民との関連」
教科書p.100など

公民

「小学校・地理・歴史との関連」
教科書p.55など

7 防災意識を育む工夫

地理では災害の要因となる現象、歴史では災害の経験、公民では災害に対する行動を扱い、防災意識を育めるようにしています。

本資料 p.43-44

地理

「日本のさまざまな自然災害」
教科書p.148-149など

歴史

「未来に向けて」
教科書p.87,227など

公民

「防災備蓄倉庫の新設を考えてみよう」
教科書p.17など

8 我が国の領土への理解を深める工夫

地理では日本の領域の範囲、歴史では領土画定の経緯、公民では国としての対応を扱い、我が国の領土について詳しく主張を理解できるようにしています。

本資料 p.56

地理

「日本の領域とその特色」
教科書p.18-19など

歴史

「日本の領土画定と近隣諸国」
教科書p.266-267など

公民

「領土を巡る取り組み」
教科書p.175-176など

9 SDGsへの意識を育む工夫

地理では地域の事例、歴史では過去の経験、公民では自らが考える課題として、SDGsについての理解が深まるようにしています。

本資料 p.41-44

地理

「地域の在り方を考える」
教科書p.234など

歴史

「多面的・多角的に構想する未来に向けて」
教科書p.286-287など

公民

「国際社会のよりよい発展」
教科書p.195-196など

10 地図の活用を促す工夫

小中高を通じて空間的な認識を高めるため、特に地図は豊富に掲載しています。

本資料 p.11-12,18,22,26,36

地理

「近畿地方」
教科書p.203など

歴史

「欧米諸国の世界進出」
教科書p.156-157など

公民

「沖縄からの距離」
教科書p.185など

共通の特色

社会科3分野共通の特色

② 二次元コード コンテンツ

アクセス先には、学習を支援するさまざまなコンテンツを収録しています。



地理的分野は、
二次元コード計**53**か所、
コンテンツ全**153**点
収録しています！

巻頭p.3-4

二次元コードについて

二次元コードは、タブレットパソコンなどを使って読み取ります。学習の理解を助ける動画などのコンテンツが入っています。
※二次元コードを読み取り、表示されたインターネットのサイトにアクセスした場合には、通信料がかかる場合があります。

下のアドレスを入れてコンテンツメニューを見ることができます。
https://ict.teikokushoin.co.jp/d-text_03jh/chiri/index.html



読み込むと...

二次元コードのメニュー画面

1 Web版「i地球儀」

▶ デジタル版地球儀が見られます。(1件)

※一部内容が変わる場合があります。

2 「技能をみがく・世界の姿」アニメーション

▶ 地図の作り方や写真の見方など、文章だけでは捉えにくい技能について、アニメーションで解説しています。(19件)

3 学習を振り返ろう「知識」

▶ 「学習を振り返ろう」の知識部分の解答を確認できます。(17件)

！ポイント

▶ タブレットなどでの学習や、自習用として有効に活用できます。
▶ 各ページの図版・タイトルわきの二次元コードからも各コンテンツにアクセスできます。

第5節 南アメリカ州

第5節の問い p.108～117

南アメリカ州では、農地や鉱山の開発が進むことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

4 NHK for Shool(動画)

▶ 学習内容に関連したコンパクトな動画を、収録しています。(116件)

地理的分野「二次元コード」掲載ページ一覧

[凡例]
★：帝国書院独自コンテンツ ★：外部へのリンク

類	内容	教科書のページ	コンテンツ数
1	Web版「i地球儀」★	巻頭3	1
2	「技能をみがく・世界の姿」アニメーション★	p3, 8, 9, 10, 11, 12, 17, 18, 22, 24, 27など	19
3	学習を振り返ろう「知識」★	p13, 25, 44, 64, 168, 184など	17
4	NHK for Shool(動画)★	p50, 68, 84, 96, 110, 122, 142, 174, 190, 206, 222, 238, 256, 272など	116

共通の特色

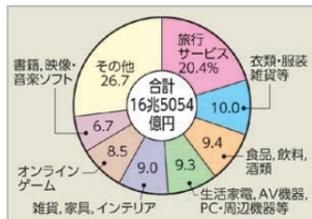
社会科3分野共通の特色

③ 特別支援教育・インクルーシブ教育への配慮

1 カラーユニバーサルデザインに配慮した見やすくわかりやすい色調

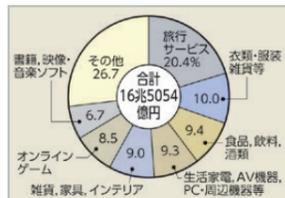
すべての生徒にとってグラフや資料が読み取りやすいよう、色覚特性をもつ人が同じように見えてしまう色を隣どうしに配置することを避けたり、境界線を黒ではっきりと書いたりしています。

カラーユニバーサルデザインに配慮した図



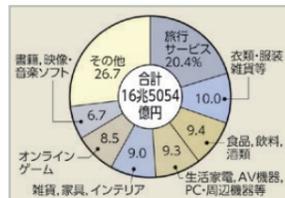
▶ p.163 ⑧

D型色覚*の人の見え方



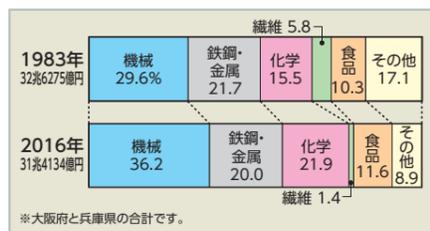
※色覚特性のD型とP型は、特性の中でも代表的なものです。上の図は、それらの色覚特性をもつ人の色の見え方をシミュレーションしたものです。

P型色覚*の人の見え方



2 特別支援教育等に配慮した表現

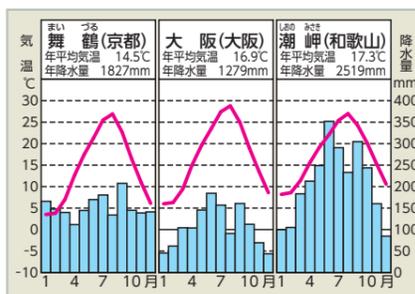
帯グラフ



▶ p.210 ②

どこまでが同一の資料であるのかわかりやすいよう、図の周囲をグレーで囲んでいます。上の図の場合、二つの帯グラフが一つの資料を構成していることがわかります。また、引き出し線の起点を明確にするため、黒点で表現しています。

折れ線グラフ



▶ p.207 ⑧

グラフが読み取りやすいよう、折れ線の太さを太くし、背景を白色にしています。

3 読みやすく誤読を防ぐ文字

誤読を防ぎ、すべての生徒にとって読みやすくなるよう、見開きタイトル、本文、図版タイトルなどにはユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用しています。

非UDフォント

行われています。

UDフォント

行われています。

- 文字の細い部分を太くして、見えやすくする。
- 紛らわしい画線をやめ、シンプルなデザインにする。
- 濁点部分のすきまを十分確保して視認性を高める。特に濁点のあるふりがなが読みやすくなっています。

非UDフォント

1946年11月3日

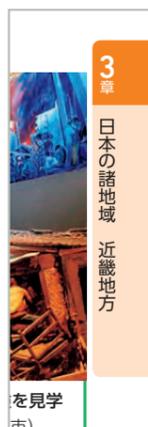
UDフォント

1946年11月3日

- 文字と線が判別しやすい。特に数字の「9」と「6」の区別や、数字の「3」とアルファベットの「S」などの区別がしやすくなっています。

4 学習単元がわかる工夫

現在学習しているのがどの章なのか一目でわかるよう、学習単元の章ごとに色を統一しています。



3章

日本の諸地域
近畿地方

を見学

5 学習が進めやすい工夫

- ▶レイアウトの違いによる生徒の混乱を防ぐため、導入資料や学習課題、振り返りの設問を各ページの同じ場所に配置し、見開きのレイアウトを原則統一しています。
- ▶「見通し・振り返り学習活動」がしやすいよう、「導入資料、学習課題(見通し)→本文→確認しよう、説明しよう(振り返り)」で見開きの展開を統一しています。

詳しくは本資料 p.31-32

すべての生徒にとって見やすくわかりやすい表現にしています。

軽さと丈夫さを求めた新用紙

- ▶新しく教科書専用の用紙を開発し、1ページあたりの紙の重さが現行版よりも約5%軽くなっています。増ページによる重さの負担を最小限に抑えています。
- ▶長期間の使用にも耐えられる堅牢な製本仕様になっています。



サポート

特別支援教育のための教科書と地図帳

『拡大教科書』(無償給与対象)

- ▶中学校用教科書の拡大教科書を発行しています。文字や資料を大きく目立たせ、レイアウトを見やすく改善しています。

■ ページ数の比較 (平成28年度版中学校用地理教科書の場合)

通常教科書	拡大教科書(7冊分)
全290ページ	全2187ページ

■ 同サイズでの紙面の比較(例)



『拡大教科書』
のご案内

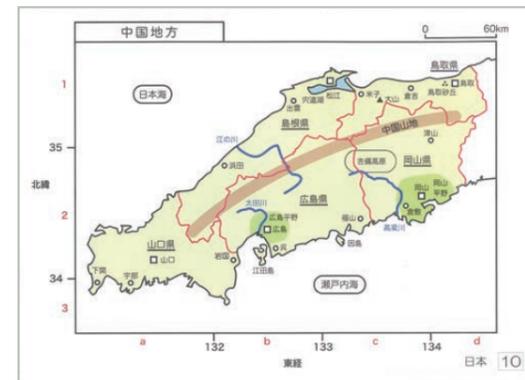


『みんなの地図帳』

～見やすい・使いやすい～(有料)

- ▶記載内容を大幅に精選し、文字の置き方や大きさ、色づかいなど、見やすくなるよう工夫されています。

日本視覚障害社会科教育研究会編集、帝国書院発行



『みんなの地図帳』
～見やすい・使いやすい～
のご案内



デジタル

『デジタル教科書』(有料)

- ▶デジタル教科書においても、特別支援教育に配慮した機能を搭載しています。

デジタル教科書の詳しい説明はp.51-52

共通の特色

教科書指導のサポート

① デジタル教科書・教材

※ラインナップやコンテンツ等、一部内容が変わる場合があります。最新情報は、右の二次元コードよりご確認ください。
【中学校 社会科Webへ】



動作が速く、多彩な機能・コンテンツを収録した新ビューア「超教科書」を採用しています。

スムーズに動く新ビューア！



帝国書院のデジタル教科書・教材ラインナップ【有料】

① 指導者用 デジタル教科書(教材)

- ▶ デジタル教科書とデジタル教材(コンテンツ)の一体型。
- ▶ 拡大・縮小や書き消し、保存などの基本機能は標準装備。
- ▶ 右ページの特別支援教育対応機能、コンテンツともに収録。

+α 5つの授業支援ツールを用意

② 学習者用 デジタル教科書

- ▶ 紙の教科書と同一の内容を収録。
- ▶ 拡大・縮小や書き消し、保存などの基本機能は標準装備。
- ▶ 右ページの特別支援教育対応機能を収録。

※②と③を購入することで、学習者用もデジタル教科書とデジタル教材(コンテンツ)の一体型として活用できます。

③ 学習者用 デジタル教材

- ▶ 拡大・縮小や書き消し、保存などの基本機能は標準装備。
- ▶ 教科書に準拠したコンテンツ集。

指導者用デジタル教科書(教材)に用意する

5つの授業支援ツール

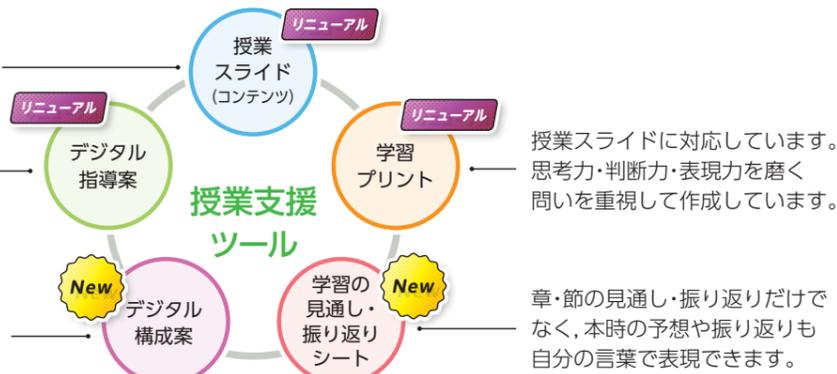
授業支援ツールの紹介動画はこちら
【中学校 社会科Webへ】



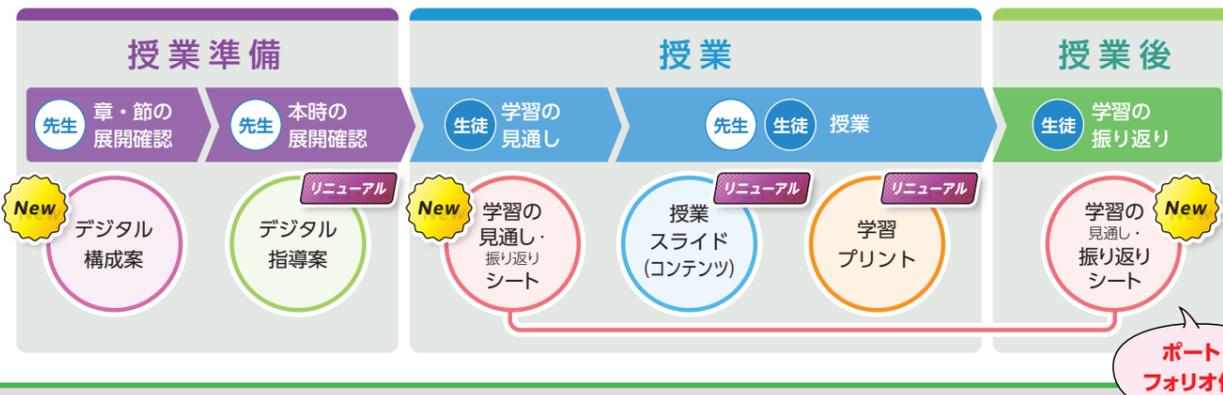
1時間の授業展開を10枚前後のスライドで構成し、コンテンツを有効活用した授業が実現できます。

提示資料をビジュアル化し、指導のポイントや問いを例示しています。

章・節の評価規準例や本時の目標・指導のポイントがひと目でわかります。



〈授業支援ツールを活用した授業展開イメージ〉



Webサイト上で体験できます!

Web体験版はこちら
【中学校 社会科Webへ】



※地図帳や歴史的分野、公民的分野の各デジタル教科書と併せて体験ができます。

特別支援教育 対応機能

- ▶ リフロー表示*や総ルビ、白黒反転、読み上げの機能を用意しています。以下に、リフロー表示におけるさまざまな機能を示しています。
- ※書体や文字サイズ、行間、余白などを自由に変更して表示する方式

通常のデジタル教科書の紙面



総ルビ

にっばん もっと ひろ かんとうへい や
日本で最も広い関東平野

かんとうちほう と けん やく まん ひとびと
関東地方は1都6県からなり、約4000万の人々が暮らす。最も人口の多い地方です。

へい や ちゆうしん にし かんとうさんち きた えち ごさんみや
平野を中心に、西は関東山地、北は越後山脈、富士山などの火山灰が堆積してできた赤土(関東まがわ)などの河川沿いにできた低地が広がっています。

かんとうへい や せい きはじ えどばくふ ひら
関東平野は、17世紀初めに江戸幕府が開かれてから、

書体, 文字サイズ, 行間, 余白の変更

日本で最も広い関東平野

関東地方は1都6県からなり、約4000万の人々が暮らす。最も人口の多い地方です。

へい や ちゆうしん にし かんとうさんち きた えち ごさんみや
平野を中心に、西は関東山地、北は越後山脈、富士山などの火山灰が堆積してできた赤土(関東まがわ)などの河川沿いにできた低地が広がっています。

※書体が明朝体、文字サイズ180%、行間1.2倍、余白1.5倍の場合

白黒反転

日本で最も広い関東平野

関東地方は1都6県からなり、約4000万の人々が暮らす。最も人口の多い地方です。

へい や ちゆうしん にし かんとうさんち きた えち ごさんみや
平野を中心に、西は関東山地、北は越後山脈、富士山などの火山灰が堆積してできた赤土(関東まがわ)などの河川沿いにできた低地が広がっています。



読み上げ機能も付いています。リフロー経由でなく、通常のデジタル教科書の紙面に対しても総ルビ、白黒反転を用意しています。

実際の操作は、体験版で!

おもなコンテンツ

- 雨温図コンテンツ
- 巻末統計
- 写真館(帝国書院ホームページへのリンク)
- 一枚で見る日本列島
- i 地球儀
- 地理院地図へのWebリンク など

+α アルファ 「デジタル教材以外も!」

掛地図や地球儀などのサポート教材はこちら
【中学校 社会科Webへ】



教科書指導のサポート

② 教師用指導書・指導者専用サイト・定期刊行冊子など

充実したさまざまなサポートを用意しています。

教師用指導書【有料】(令和3年3月発行予定)

教科書に準拠した指導書で授業をサポートします。

1 南アメリカ州の自然環境

2 多様な民族と人々の生活

3 大規模化する農業と発展する工業

指導用教科書(朱書き)編のイメージ(画像は平成28年度版)

指導書の内容

- 1 指導用教科書(朱書き)編
- 2 指導・評価計画編
- 3 学習プリント
- 4 Webサポート

※一部内容が変わる場合があります。

指導・評価計画編のイメージ(画像は平成28年度版)

教師用指導書のご案内



指導者専用サイト(学校の先生方限定)【無料】

無料でご利用いただける登録制の「指導者専用サイト」を開設しています。ダウンロードして活用できるワークシートなど、さまざまなコンテンツを多数収録しています。情報は随時更新していきます。



指導者専用サイトの案内



おもな収録コンテンツ

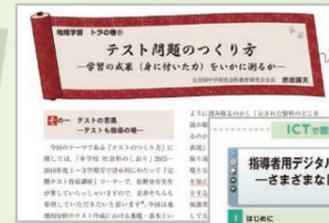
- 地理学習 トラの巻 ※指導のポイント提示
- 「中学校 社会科のしおり」授業研究コーナー対応ワークシート
- プレミアム写真館(世界・日本)
- 白地図 など

ポイント

小学校や中学校などの学校種の枠を超えて、社会科に関するあらゆる情報が入っています。

定期刊行冊子(「中学校 社会科のしおり」)【無料】

中学校の先生方を対象にした、定期刊行冊子『中学校 社会科のしおり』を発行しています。地図帳活用のほか、社会科の学習における授業実践例や、学習指導要領などに関する社会科教育の情報を掲載しています。



定期刊行冊子のご案内



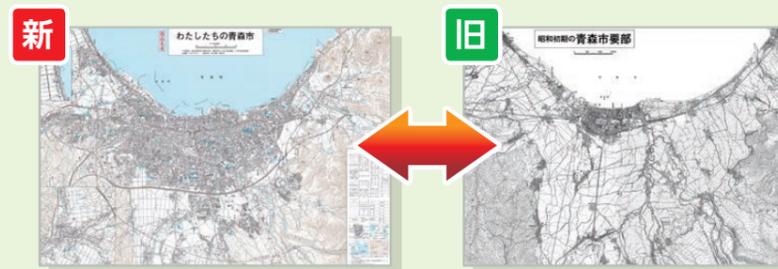
ポイント

- 1 「指導用教科書(朱書き)編」は図版・本文解説・板書例など、授業で使えるネタが満載です。
- 2 「指導・評価計画編」は年間指導計画案や単元構成案、授業展開案などに評価規準を掲載しています。
- 3 「学習プリント」は毎時間ごとのワークシートで、授業をサポートします。
- 4 「Webサポート」は図版データやテスト例などを収録する予定です。最新情報を随時アップできるように、従来のCD-ROMからWeb上でのサービスに切り替える予定です。

※Webサポートへの認証IDは、ご購入いただいた教師用指導書内にて提示する予定です。

地域版地図【有料】

教育委員会などからの委託を受けて作成する、オーダーメイドの地図です。新旧比較の地図や、林間学校の訪問先を入れた地図などに、カスタマイズできます。



例：青森市での新旧地形図の比較

地域版地図のご案内



サポート

『社会科 中学生の地理』の特色一覧

① 教育基本法との対応

下表のデータはこちら
[Excelデータ]



教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習のはじめに、大きな写真やイラスト地図を設けることで、生徒の興味・関心を引きつけ、「主体的な学び」を促せるようにした。(p.48-49,66-67,82-83,94-95,108-109,120-121,171-173,187-189,203-205,219-221,235-237,253-255,269-271) ● 単元のはじめの「章の問い」「節の問い」、各見開きの「学習課題」と「確認しよう」「説明しよう」、章や節の終わりの「振り返ろう」というように問いを構造化することで、単元のまとまりのなかで「深い学び」が実現できるように構成した。(全編) ● 本文は、具体的に例示したり、社会的な事象の背景や因果関係までわかるようにしたりするなど丁寧でわかりやすくし、幅広い知識と教養を無理なく身に付けられるようにした。(全編) ● 「章(節)の学習を振り返ろう」の下段、または右ページでは、「地理的な見方・考え方」を働かせた言語活動を行うことで、学んだ知識に基づいて「深い学び」が実現できるようにした。(p.13,25,44,65,81,93,107,119,129,169,185,201,217,233,251,267,283) ● 世界の諸地域の学習では、州ごとに【導入(写真)→自然環境→歴史・文化→産業および地球的課題→学習の振り返ろう】という構成にすることで、知識や教養をバランス良く身に付けられるとともに、異文化理解が深まるようにした。(p.48-129) ● 日本の諸地域の学習では、地方ごとに【導入(イラスト地図・写真)→自然環境→注目する視点→生活・産業など→学習の振り返ろう】という構成にすることで、知識や教養をバランス良く身に付けられるとともに、正しい国土理解が十分に行えるようにした。(p.171-283) 	おもに 特色1 p.5-12 特色2 p.13-28 特色4 p.35-40
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「技能をみがく」コーナーでは、地図帳の使い方やグラフの作り方などの技能を身に付けることで、自主・自立の精神を涵養できるようにした。(p.5,9,12,24,27,29,45,134,152など計23か所) ● インクルーシブ教育に配慮し、誰でも読み取りやすい書体(ユニバーサルデザインフォント)や色調を導入することで、さまざまな特性をもつ生徒の価値を尊重して、その能力を伸ばせるようにした。(全編) ● 二次元コードを随所に設置することで、授業以外においても生徒が自主的に活用できるようにした。(巻頭3など計53か所) ● 教科書の用紙は、丈夫でありながら従来のものより単位面積あたり5%軽量化したものを新たに開発することで、持ち運びの際に生徒の負担にならないようにした。(全編) ● 生活をより豊かにするために工夫し努力する人の姿を、「声」コーナーや写真などで紹介することで、勤労を重んじる態度を養えるようにした。(p.72,78,88,100,116,127,138,180,215,224,249,262,274など) ● 「身近な地域の調査」および「地域の在り方」では、調査の手法、調査結果の分析に加え、プレゼンテーションのやり方にも触れることで、情報活用能力を高められるようにした。(p.130-141,285-295) 	おもに 特色2 p.13-28 特色4 p.39-40 および p.47-49

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ● コラム「未来に向けて」では、人々が連携・協働して社会的な課題に取り組む姿を紹介することで、生徒自身も社会の一員として、主体的に社会の形成に参画する意識を高められるようにした。(p.69,89,91,113,123,181,193,207,225,247など計25か所) ● 特設ページ「地域の在り方を考える」では、実社会の人々が連携・協働して、地域のよりよい発展をめざして取り組む姿を紹介することで、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした。(p.186,202,218,234,252,268,284) ● 「世界の諸地域」および「日本の諸地域」各節末の「節の学習を振り返ろう」では、地域に見られる課題の解決に向けて考えを深める活動を取り入れることで、学んだ地域の課題と自分たちとの関わりを意識できるようにした。(p.64-65,80-81,92-93,106-107,118-119,128-129,184-185,200-201,216-217,232-233,250-251,266-267,282-283) ● 生徒自身が住む地域における、社会的な課題の分析と、その解決に向けた構想に取り組む活動を設けることで、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるよう配慮した。(p.285-295) ● 教科書中のキャラクターは、全体として男女の比率がほぼ同じになるように留意した。(全編) 	おもに 特色5 p.44
第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ● 国連が掲げる「持続可能な開発目標(SDGs)」を解説することで、自然を大切に、環境保全に寄与する意識を高められるようにした。(巻頭1-2) ● 「技能をみがく」コーナーでは、地形図やハザードマップの読み取り方など防災に関わる技能を習得できるよう作業課題を手厚く設けることで、生命を守るための情報活用能力を育成できるようにした。(p.134-137,152-153) ● コラム「未来に向けて 環境」などで、実社会の人々が連携・協働して社会的な課題の解決に取り組む姿を紹介することで、環境を保全し生命を尊び持続可能な社会をめざす態度を養えるようにした。(p.69,91,123,181,213,225,279) ● 特設ページ「地域の在り方を考える」では、地域のよりよい発展をめざして取り組む姿を紹介することで、環境を保全し生命を尊び持続可能な社会をめざす態度を養えるように配慮した。(p.186,202,218,234,252,268,284) 	おもに 特色2 p.13-28 特色4 p.39-40 特色5 p.41-44
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1部第2章「3日本の領域とその特色」では、日本の領域の範囲とその特色について丁寧に解説することで、日本の立場が国際法に則っていることを理解し、国際社会を尊重する姿勢を養えるようにした。(p.18-21) ● 第2部第1章「8人々の生活と宗教の関わり」では、偏見を与えない記述となるよう配慮することで、他国の人々を尊重する態度を養えるようにした。(p.42-43) ● 第3部第2章「日本の地域的特色」では、日本全体としての地域的特色を的確に表現できる資料を掲載することで、正しい国土理解と、自然の恵みへの感謝の念や国土への愛着を養えるようにした。(p.142-169) ● 「声」コーナーや写真などで、生活をより豊かにするため、また文化の継承と創造のために工夫し努力する人の姿を紹介することで、勤労を重んじる態度や、伝統や文化を尊重する態度を養えるようにした。(p.72,78,88,100,116,127,138,180,215,224,249,262,274など) 	おもに 特色1 p.5-12 特色2 p.13-28 および p.45-46

『社会科 中学生の地理』の特色一覧

② 検討の観点から見た内容の特色

下表のデータはこちら
[Excelデータ]



観点	観点の内容	本書の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
教育基本法への対応	教育基本法との対応が十分にはかかれているか。	●教育基本法第1条の目標および教育基本法第2条第1～5号に示された内容について、 社会科の目標や学習内容に沿った指導を効果的に行うことができる ように構成されている。	おもに p.55-56
学習指導要領への対応	学習指導要領の目標・内容の趣旨に沿ったものであるか。	●単元構成は、学習指導要領の目標・内容に沿って構成されている。「もくじ」[この教科書の学習のしかた]では、 単元構成と学習内容、各種コーナーの意図や役割が一望でき、学習の位置づけや見通しがつかみやすい ように工夫されている。(巻頭3-6) ●地域の特色が概観できるイラスト地図や写真資料、章・節ごとの単元を貫く問い、具体的な事例をもとに因果関係がわかる本文、単元の最後の「章(節)の学習を振り返ろう」のように、 単元が構造化され、見直し・振り返りに基づいた単元学習が確実に実践できる よう工夫されている。 ●臨場感あふれる写真を通して日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、主体的に各地の地域的特色を捉えられる本文やコラムがバランスよく盛り込まれている。 ●学習指導要領で重視されている「 地理的な見方・考え方 」を働かせながら、我が国の国土や世界の諸地域に関する地理的特色が捉えられるよう構成されている。また地理的分野の全体を通して鍛えていく「 地理的な見方・考え方 」を整理したページが設けられ、わかりやすく説明されている。(巻頭7) ●知識が確実に習得できるよう丁寧な本文とし、本文の理解を促す資料を適宜配置し、知識・技能の形成を促すコラムや思考力・判断力・表現力を育む作業が随所に盛り込まれ、 公民としての資質・能力の基礎を育成 できるように配慮されている。	おもに 特色1 p.5-12 特色2 p.13-28 特色3 p.29-34 特色4 p.35-40 特色5 p.41-44
内容の配列・分量・程度	全体の分量は、年間標準時数から見て適切か。各単元の配当時数は適切か、系統性が考慮されているか。	●1見開き1単位時間(以下、時間)の授業が想定され、学習課題が明確に設定されている。 ●授業数は、第1部に10時間(第1章5時間、第2章5時間)、第2部に39時間(第1章9時間、第2章30時間)、第3部に54時間(第1章4時間、第2章13時間、第3章37時間)、第4部に5時間(第1章5時間)が配当され、標準授業時間数115時間のうち108時間を活用する配当で、適切である。予備時間は7時間設けられている。	おもに 特色3 p.29-34
	内容の程度・範囲および文章は、生徒の発達段階から見て適切か。	●本文は、 具体的に例示したり、地理的事象の背景や因果関係までわかる ようにしたりするなど、丁寧でわかりやすくなっている。また、平易な表現にするなど、中学生の発達段階が考慮されている。 ●本文、図版タイトル、キャプションの難しい漢字にはふりがなが付されている。また、固有名詞や地理用語には適宜ふりがなが付されており、地名や用語、熟語が正しく読めるように配慮されている。 ●文体は「です、ます」調の語り口で、生徒に親しみやすくなっている。 ●中学校学習指導要領の学習範囲を逸脱せず、基本的な用語や概念の理解を優先的に学べるようになっている。	おもに 特色2 p.13-28 特色3 p.29-34 特色4 p.35-40
	学習を効果的かつ効率的に進めるための工夫がなされているか。	●各見開きは、本文、資料、側注などが 統一されたレイアウトで配置され、紙面の使い方が整理されている 。学習内容が定着するよう、「導入→学習課題→本文→確認しよう・説明しよう」という展開で統一し、構造化されている。 ●本文と資料の関連する箇所には、 図・写真や他ページへの適切な参照指示 が記載され、学習効果を高めるとともに、効率よく資料の活用ができるように工夫されている。 ●各見開きでは、 学習している分野がわかる ように、 章ごとに色が統一 されている。さらに、紙面右端に インデックス が設けられ、 全体における位置づけを確認しながら学習 できるように工夫されている。 ●用語解説や関連資料が本文のページの側注欄に掲載されており、ページ間を移動する手間が省け、生徒が集中力を切らさずに授業を進められる。	おもに 特色3 p.29-34
内容の扱い／学習活動	課題解決的な学習を行うための構成・工夫がなされているか。	●単元を貫く「章(節)の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、単元の最後の「章(節)の学習を振り返ろう」というように問いが構造化され、 単元を通してそれぞれの問いを考えていくことで、課題解決的な学習ができる 構成になっている。 ●「章(節)の学習を振り返ろう」では、「 章(節)の問い 」に対して「 地理的な見方・考え方 」を働かせて考えるステップなど、 課題解決的な学習ができる工夫 がなされている。(p.106-107など)	おもに 特色3 p.29-34

観点	観点の内容	本書の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
内容の扱い／学習活動	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための構成・工夫がなされているか。	●地域調査の単元では調査テーマの決め方、視点の例、調査手順などが具体的に示されており、生徒が主体的に学習を進められるように配慮されている。(p.130-141) ●単元を貫く「章(節)の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、単元の最後の「章(節)の学習を振り返ろう」というように問いが構造化され、単元のまとまりの中で「深い学び」が実現できる構成になっている。 ●世界の諸地域および日本の諸地域の単元冒頭に、学習の進め方や各地域で注目するテーマ・視点などが「 序節 」としてわかりやすく示されており、 学習の見通しが立てやすくなっている 。(p.47,170) ●本文のページの導入資料では、写真や資料に対して中学生に親しみやすいキャラクターが吹き出しで疑問を投げかけており、導入資料を用いて対話的な学習ができるよう工夫されている。 ●本文のページは左ページ上段に導入資料、右ページ上段に図版、写真、コラムを配置し、下部に本文を掲載する学習しやすいレイアウトで統一されている。また、相互にリンクが張られ、資料が活用しやすく工夫されている。 ●「章(節)の学習を振り返ろう」では、 学習した知識をもとに、「地理的な見方・考え方」を働かせながら主体的・対話的に「章(節)の問い」を振り返る ことで、「 深い学び 」につなげられるよう配慮されている。(p.107,217など)	おもに 特色2 p.13-28 特色3 p.29-34 特色4 p.35-40
	基礎的・基本的な「知識および技能」を確実に習得するための工夫がなされているか。	●地域調査の単元では調査テーマの決め方、視点の例、調査手順、必要な技能が系統だてて具体的に示されており、技能を習得しやすいうように配慮されている。(p.130-141) ●見開き1時間の紙面が、 興味・関心を引く「導入」→学習を見通せる「学習課題」→丁寧でわかりやすい「本文」→学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」の展開で構造化 され、基礎的・基本的な知識および技能が確実に理解できるようになっている。 ●第2部第2章「世界の諸地域」、第3部第3章「日本の諸地域」では、各地の地域的特色を確実に理解できるように、各節の構成が「 導入写真 」→「 自然環境 」→ 地域で特徴的な「歴史・文化」「産業 など」→「 節の学習を振り返ろう 」という展開に構造化されている。(例：p.108-119 南アメリカ州、p.203-217 近畿地方) ●本文は、全編にわたり地理的事象のしくみや概念がわかるように因果関係をふまえた上で、具体例を挙げながらわかりやすく記述されている。また、文章で書かれた内容を補足し理解を促進する、わかりやすい図解が多数掲載されている。 ●「 技能をみがく 」コーナーが23か所設けられ、「 地理的な見方・考え方 」を働かせる上で 必要な基礎的な技能が習得 できるよう配慮されている。(例：p.5,9,11,17,24,29,46など)	おもに 特色2 p.13-28 特色3 p.29-34 特色4 p.35-40 特色5 p.41-44
	深い学びを実現させるための「 思考力・判断力・表現力等 」を育成するよう配慮がなされているか。	●本文ページの見開きの右下には、「確認しよう」と「説明しよう」が設置されている。「確認しよう」には本時の学習での習得事項を確認する作業課題が、「説明しよう」には本時の学習内容を活用して思考を促し、自分なりに判断・表現する問いが設けられている。これにより 言語活動を毎時間くり返し行い、思考力・判断力・表現力を育成 できるよう配慮されている。 ●各章末には「章(節)の学習を振り返ろう」が配置され、 章の学習で得た知識を生かして、「地理的な見方・考え方」を働かせつつ、単元を貫く問いに対して思考・判断・表現する課題 が設けられている。 ●世界・日本の諸地域単元の「節の学習を振り返ろう」と「地域の在り方」が関連しているため、世界や日本の諸課題を自分たちの身のまわりの課題と関係付けて構想できる工夫がなされている。	おもに 特色2 p.13-28 特色3 p.29-34 特色4 p.35-40
	「 思考力・判断力・表現力等 」の育成につながる 社会的な見方や考え方を働かせる ための配慮がなされているか。	●写真や図版、本文が密接に関連することで、地理的事象の背景や因果関係を読み取ることができ、「 地理的な見方・考え方 」を自然に働かせられるように配慮されている。 ●「章(節)の学習を振り返ろう」では、地図や写真、表などのさまざまなツールを用いて、「 地理的な見方・考え方 」を働かせられるように工夫されている。(p.13,25,44,65,81,93,107,119,129,169,185,201,217,233,251,267,283)	おもに 特色3 p.29-34 特色4 p.35-40
	生徒の 興味・関心 を喚起させ、「 主体的に学習に取り組む態度 」を育成できるような配慮がなされているか。	●幅広の判型(AB判)で、 写真や地図、グラフなどが大きく見やすく提示 され、地理への興味・関心が喚起されるように工夫されている。 ●第2部第2章「世界の諸地域」では各節の冒頭に「 導入写真 」ページが設けられ、地域への興味・関心を高めてから学習に入れるようになっている。(p.48-49,66-67,82-83,94-95,108-109,120-121) ●第3部第3章「日本の諸地域」では各節の冒頭に「 イラスト地図 」および「 導入写真 」ページが設けられ、地域への興味・関心を高めてから学習に入れるようになっている。(p.171-173,187-189,203-205,219-221,235-237,253-255,269-271) ●生徒にとって親しみやすい中学生のキャラクターが各ページに配置され、発問や気づき、学習の手がかりや示唆などを提示することで、主体的に学習へ取り組めるように配慮されている。 ●各見開きの左上に、1時間ごとの導入となる資料が設けられている。ワイドな写真からイメージを喚起したり、驚きや疑問をもったりして、 学習への意欲が引き出せる ようになっている。 ●地域調査の単元では調査テーマの決め方、視点の例、調査手順などが具体的に示されており、生徒が主体的に学習を進められるように配慮されている。(p.130-141)	おもに 特色2 p.13-28 特色3 p.29-34

観点	観点の内容	本書の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での 特色と掲載ページ
内容の扱い／学習活動	小学校・高等学校との接続や関連に配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「日本の諸地域」冒頭のイラスト地図では、小学校の既習事項を復習させる問いが設定されている。(p.171,187,203,219,235,253,269) 世界・日本の諸地域学習において、自然環境、歴史・文化、産業などの地域的特色をきちんとおさえる配慮がなされている。 第1部第1章「世界の姿」や第2章「日本の姿」に設けられた作業「やってみよう」では、小学校で学習する「日本の国土」や地図帳の活用に関する内容を、より深化させる学習ができるようになっている。(p.9,11,18,24など) 本文ページ下段には「小学校・歴史・公民との関連」コーナーが設けられ、小学校で学習した内容を確認できるよう、関連用語が提示されている。(p.164など) 	おもに 特色2 p.13-28
	他分野との接続や関連に配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 本文ページ下段には「小学校・歴史・公民との関連」コーナーが設けられ、歴史的分野・公民的分野との接続ができるよう、関連用語が提示されている。(p.124など) 世界・日本の諸地域学習において、各地域の文化や産業についての歴史的経緯が積極的に記載され、歴史的分野との接続が考慮されている。 「防災」「環境」「共生」といった、現在および将来の社会が直面する課題を取り上げたコラム「未来に向けて」が25テーマ設置され、公民的分野への接続が考慮されている。 	おもに 特色2 p.13-28 特色5 p.43-44
	我が国の伝統・文化、宗教に対する理解を深められるような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第3章第6節「東北地方」では、地域を見る視点を「生活・文化」とし、伝統文化を生かした産業や伝統文化の継承について考察できるよう配慮されている。(p.253-267) 第3部第3章第7節「北海道地方」では、「地域の在り方を考える」においてアイヌの文化について触れ、多文化が尊重される社会を意識させるよう配慮されている。(p.284) 	おもに 特色2 p.13-28
	我が国の領土・領域を正しく理解できるような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 第1部第2章「3 日本の領域とその特色」のなかで、日本の領域について図や写真を用いて丁寧に説明し、正しい理解を深められるよう配慮されている。また、北方領土、竹島、尖閣諸島が日本固有の領土であることが明記され、領土に関する現状と課題を示しつつ、平和的な解決に向けてどのような方法があるのか考えられるよう配慮されている。(p.18-21) 	おもに p.45-46
	補充的な学習や発展的な学習に対して、そのような工夫・配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 世界・日本の諸地域学習の「節の学習を振り返ろう」では、ステップ3で持続可能な社会に向けて構想を行う発展的な課題が設けられている。(p.107,217など) 地域調査と地域のあり方の単元は、協働学習形態の提示が行われている。 コラム「未来に向けて」が25か所設置され、持続可能な社会をつくるための人々の取り組みを示すことで、社会に対し生徒自身がどのように参画していくかを発展的に考えることができるようになっている。(p.69,91,123など) 	おもに 特色3 p.29-34
	生徒が家庭でも主体的に自学自習できるような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の冒頭には「この教科書の学習のしかた」が掲載され、自学自習がしやすいように配慮されている。(巻頭5-6) 緯度・経度や時差など、図版だけでは理解しづらい概念を説明する際は、二次元コードによるアニメーションを掲載して、理解を促すよう配慮されている。 二次元コードで学習内容に関連する動画や「章(節)」の学習を振り返ろう」の解答などが閲覧でき、生徒が自学自習しやすいように工夫されている。(巻頭3など計53か所) 	おもに p.47-48
今日的な課題への対応	環境教育に関して、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 第2部第2章「世界の諸地域」、第3部第3章「日本の諸地域」では、学習が「自然環境」から始まっており、各地域の自然環境に対する理解が深められるように配慮されている。(南アメリカ州 p.110,近畿地方 p.206など) コラム「未来に向けて 環境」が7テーマ設置され、環境保全に取り組んでいる人々の姿が紹介されている。(p.69,91,123,181,213,225,279) 	おもに 特色5 p.41-44
	防災に関して、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第2章「日本の地域的特色」の中で日本の自然災害について扱っている。日本で起こりうる自然災害と各地で行われている防災への取り組みについて学び、同時に自分自身が災害にどのように備えるか、災害発生時にどのように行動すべきか、主体的に考えることができるよう配慮されている。(p.148-153) 「技能をみがく」の「ハザードマップの読み取り方」「防災情報の入手のしかた」では、ハザードマップの使い方や災害時の避難方法等を実践的に学習でき、防災への意識を高めることができるよう配慮されている。(p.152-153) 日本の諸地域の自然環境を扱う見開きでは、各地方の自然環境に関連した災害とそれに対する対策の実例を示したコラム「未来に向けて」が設置されており、地方における自然環境の特色と防災の関連がつかめるよう配慮されている。(p.175,191,207,223,239,257,273) 東北地方の特設ページ「地域の在り方を考える」では、東日本大震災の復興に向けた取り組みを事例として扱っている。防災の重要性を強調するとともに、地域ぐるみでの取り組みの大切さを知ることができる。(p.268) 	おもに 特色5 p.41-44
	人権・平和教育の推進のために、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 世界・日本の諸地域学習を通して、各地にはさまざまな立場や考え方があることを認識し、多様な価値観や文化に対する理解と寛容な態度を育むことができるよう配慮されている。 コラム「未来に向けて 共生」が9か所設置され、多様な価値観や文化の共生をはかる人々の姿が紹介されている。(p.57,87,89,99,113,125,193,209,247) 	おもに 特色5 p.41-44

観点	観点の内容	本書の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での 特色と掲載ページ
今日的な課題への対応	グローバル化に関して、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 第2部第1章「人々の生活と環境」のなかで、世界とのつながりのなかで変化していく衣食住などの事例を写真や本文で提示することで、グローバル化が地域に及ぼす影響について取り上げられている。(p.31,33,35,37,39,40-41) 第3部第3章「日本の諸地域」では、グローバル化の影響が地方産業に及ぼす影響が提示されている。(p.179,181,196-197,210,226,246-247,262,280) 	おもに 特色2 p.13-28 特色4 p.35-40
	少子高齢化に関して、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第2章「6日本の人口」では、日本における少子高齢化の現状について記述されている。(p.155) 第3部第3章「日本の諸地域」では、少子高齢化が地域に及ぼす影響について記述されている。(p.198,214,243,249,265) 	おもに 特色2 p.13-28
	情報化に関して、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 第3部第2章「10日本の商業・サービス業」では、情報化が商業に与える影響が記述され、第3部第2章第5節「4人口の集中と第3次産業の発達」では、情報が集まる地域の産業について記述されている。(p.163,244-245) 	
	「持続可能な開発目標」(SDGs)に関して、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の冒頭で世界と日本における「持続可能な開発目標」(SDGs)の事例が写真で紹介され、SDGsと地理的事象の関連について意識できるように工夫されている。(巻頭1-2) コラム「未来に向けて」や特設ページ「地域の在り方を考える」にはSDGsマークが付され、持続可能な社会に向けて取り組んでいる実社会の事例を掲載し、SDGsへの関心が高まるよう配慮されている。(p.69,91,123,181,218,225,279) 	おもに 特色5 p.41-44
表記・表現	統計、挿絵、写真、図表等は鮮明、正確かつ適切であり、相互の関連がはかれるなど学習効果を高めるための工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 本文の記述を補足する写真や図版などが大判で豊富に掲載され、学習を深められるようになっている。 学習内容に関連する事項についての参照ページ、参照資料の図番号などのリンク機能が設けられ、資料の活用を促している。 資料の読み取りのポイントを示した「資料活用」が随所に設置され、資料の活用を促している。 地理的分野の学習に必要な用語を解説した「解説」のコーナーが側注欄に52項目設けられている。文章だけでは理解しづらい用語には、図解や写真が添えられて視覚的に理解が深まるように工夫されている。(p.174「カルデラ」など) 	おもに 特色2 p.13-28 特色4 p.35-40
	特別支援教育やインクルーシブ教育に対して適切な配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 本文や図版などでは、文字をはっきり読み取ることができるユニバーサルデザインフォント(UDフォント)が使用され、誤読を防ぐように配慮されている。 見開きのデザインや、グラフ・地図などの資料には、色覚特性をもつ生徒も識別しやすい色や模様が使用され、カラーユニバーサルデザインの配慮がなされている。 色数の多いグラフや地図には、模様や線種、記号などが使用され、色以外での区別ができるよう配慮されている。 図版が色で囲まれ、どこまでが同一の図版か読み取りやすくなっている。 各見開きのデザインは、生徒が学習しやすいように本文、資料、側注などが統一されたレイアウトで整理されている。 紙面右端のインデックスには、章の学習内容が記載されていることで、一目で学習している単元がわかるように配慮されている。 反射を抑えた紙が用いられ、読み取りやすくなるように配慮されている。 	おもに 特色3 p.31-32 および p.49-50
印刷・装丁等	紙質や印刷の鮮明さなど、生徒の利便性への配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 写真の印刷は鮮明で見やすくなっている。 地図などの図版は、記号や注記文字が明瞭で読み取りやすいように配慮されている。 紙は、反射を抑えつつ、鮮明に発色して裏写りせず、かつ文字も書き込める軽量なものが使用されている。 生徒が家に持ち帰ることを想定し、軽い紙が用いられている(現行教科書比単位面積あたり約5%の軽量化)。 	おもに p.49-50
	造本は3年間の使用に耐えられるような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 表紙の材料は引っ張り、折りなどに強い用紙が使用され、さらに、表面の摩耗・汚れを防ぐためにポリプロピレンシートが貼られており、長期間の使用に耐えられる。 製本は、針金綴じよりも強度があり、かつ重量の軽いPUR製本が用いられている。これにより本が大きく開くため、掲載情報量が増えるとともに、机の上を開いたまま置くことができる。 	おもに p.49-50
	用紙・インキ等は、環境への配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 古紙および環境に優しいフレッシュパルプが用いられている。インキには国産米の米ぬかから作られるライスインキが使用され、環境保全と地産地消への配慮がなされている。 針金を使わないPUR製本により、資源を節約すると同時に、リサイクルしやすくなっている。 	おもに p.49-50
サポート体制	デジタル教科書・教材や教師用指導書などのサポート体制はどのようなになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 学習者用デジタル教科書、学習者用デジタル教材、指導者用デジタル教科書(教材)、教師用指導書、拡大教科書が令和3年4月までに発刊される予定である。 	おもに p.51-54



『社会科 中学生の地理』の全体構成(もくじ)

本資料での掲載ページ

地域によりよい発展を目指して	巻頭1-2	→ 41
もくじ	巻頭3-4	→ 47
この教科書の学習のしかた	巻頭5-6	—
地理的な見方・考え方について	巻頭7	→ 35
地理的分野の学習の全体像を見通そう	1	—
第1部 世界と日本の地域構成		—
第1章 世界の姿	2-12	—
★章の学習を振り返ろう	13	—
第2章 日本の姿	14-24	→ 36
★章の学習を振り返ろう	25	—
第2部 世界のさまざまな地域		—
第1章 人々の生活と環境	26-43 45-46	→ 1, 36, 37, 39, 40
★章の学習を振り返ろう	44	—
第2章 世界の諸地域		—
序説 学ぶにあたって	47	→ 27
第1節 アジア州		—
○写真で眺めるアジア州	48-49	—
(本文ページ)	50-63	→ 9
★節の学習を振り返ろう	64-65	—
第2節 ヨーロッパ州		—
○写真で眺めるヨーロッパ州	66-67	—
(本文ページ)	68-79	—
★節の学習を振り返ろう	80-81	—
第3節 アフリカ州		—
○写真で眺めるアフリカ州	82-83	—
(本文ページ)	84-91	—
★節の学習を振り返ろう	92-93	—
第4節 北アメリカ州		—
○写真で眺める北アメリカ州	94-95	—
(本文ページ)	96-105	→ 9, 29-32
★節の学習を振り返ろう	106-107	→ 30, 33-34
第5節 南アメリカ州		—
○写真で眺める南アメリカ州	108-109	→ 5-6, 13, 38
(本文ページ)	110-117	→ 14-17, 38
★節の学習を振り返ろう	118-119	→ 18
第6節 オセアニア州		—
○写真で眺めるオセアニア州	120-121	—
(本文ページ)	122-127	→ 44
★節の学習を振り返ろう	128-129	—
第3部 日本のさまざまな地域		—
第1章 身近な地域の調査	130-141	→ 40
第2章 日本の地域的特色	142-167	→ 43, 49
★章の学習を振り返ろう	168-169	—
第3章 日本の諸地域		—
序説 学ぶにあたって	170	→ 28
第1節 九州地方		—
(イラスト地図)	171	→ 12
○写真で眺める九州地方	172-173	—
(本文ページ)	174-183	→ 10
★節の学習を振り返ろう	184-185	—
■地域の在り方を考える	186	→ 42
第2節 中国・四国地方		—
(イラスト地図)	187	—
○写真で眺める中国・四国地方	188-189	—
(本文ページ)	190-199	→ 44
★節の学習を振り返ろう	200-201	—
■地域の在り方を考える	202	—
第3節 近畿地方		—
(イラスト地図)	203	→ 11, 19
○写真で眺める近畿地方	204-205	→ 2, 7-8, 20
(本文ページ)	206-215	→ 21-25, 38, 44, 49
★節の学習を振り返ろう	216-217	→ 26
■地域の在り方を考える	218	—
第4節 中部地方		—
(イラスト地図)	219	—
○写真で眺める中部地方	220-221	—
(本文ページ)	222-231	→ 10
★節の学習を振り返ろう	232-233	—
■地域の在り方を考える	234	→ 42
第5節 関東地方		—
(イラスト地図)	235	—
○写真で眺める関東地方	236-237	—
(本文ページ)	238-249	→ 2, 44
★節の学習を振り返ろう	250-251	—
■地域の在り方を考える	252	—
第6節 東北地方		—
(イラスト地図)	253	—
○写真で眺める東北地方	254-255	—
(本文ページ)	256-265	→ 10
★節の学習を振り返ろう	266-267	—
■地域の在り方を考える	268	→ 42
第7節 北海道地方		—
(イラスト地図)	269	—
○写真で眺める北海道地方	270-271	—
(本文ページ)	272-281	—
★節の学習を振り返ろう	282-283	—
■地域の在り方を考える	284	—
第4部 地域の在り方		—
序説 学ぶにあたって	285	—
第1章 地域の在り方	286-295	→ 42

著作者を代表して

日本と世界の諸地域を学ぶ意義とは

東京学芸大学 教授 加賀美 雅弘

中学校の地理的分野の学習では、私たちが暮らす地球上のさまざまな地域について学びます。学習にあたっては、世界全体を見わたす一方で、日本国内にも目を向けて、どこで何が起これ、それがどのような理由により発生するのかを理解することをめざします。「地理的な見方・考え方」を働かせることによって、それぞれの地域の特徴を捉えて、グローバル化に見られるような世の中の変化についての理解が深められるほか、身近な地域などで実際に行う調査を通して、ふだん慣れ親しんでいる風景から地域について考えることができるようになります。

世界にはさまざまな人々の暮らしがあり、多様な文化が見られ、それぞれの社会は互いに助け合い、関係し合っています。日本の諸地域を学ぶことによって日本の国土を理解し、世界のなかに暮らす私たち自身に

ついて考え、世界の人々との相互理解や異文化理解に関わる学習も深められます。また、迫りくる自然災害にどのような対策が必要なのか、よりよい社会をどのようにつくったらよいかを考えることも地理的分野の課題です。本書では、そうした点にも力を入れて編集しています。

本書を通して地理的分野について学ぶことによって、まさにこれからの世の中を生きる上で欠かせない知識と視野を、中学生の皆さんにもってもらいたいと、私たちは願っております。

帝国書院の
教科書づくりへの想い
【動画 2分34秒】



本書の著作関係者

※所属・肩書きは令和2(2020)年3月時点のもの

監修者

加賀美 雅弘 東京学芸大学教授
米田 豊 兵庫教育大学教授
志村 喬 上越教育大学教授
吉田 剛 宮城教育大学教授

著作者

梅田 克樹 千葉大学准教授
漆間 浩一 鎌倉女子大学教授
大山 修一 京都大学准教授
大呂 興平 大分大学教授
小岩 直人 弘前大学教授
小島 泰雄 京都大学教授
近藤 章夫 法政大学教授
土屋 純 関西大学教授
堤 純 筑波大学教授
永田 忠道 広島大学准教授
仁平 尊明 北海道大学准教授
武者 忠彦 信州大学准教授
池下 誠 東京都練馬区立
大泉西中学校
主任教諭

池田 康二 東京都江戸川区立
篠崎第二中学校主任教諭
岸上 智弘 大阪府大阪市立
十三中学校教頭
立石 昌文 福岡県公立中学校元教諭
中野 英水 東京都板橋区立
赤塚第二中学校主幹教諭
渡邊 智紀 お茶の水女子大学附属中学校教諭

編集委員

赤坂 寅夫 東京都公立中学校元校長
梅津 正美 鳴門教育大学教授
江口 勇治 筑波大学名誉教授
鴛原 進 愛媛大学教授
佐野 金吾 東京都公立中学校元校長
土屋 武志 愛知教育大学教授
松岡 尚敏 宮城教育大学教授
吉村 功太郎 宮崎大学教授

編集協力者

井上 弘毅 神奈川県横浜市立
金沢中学校教諭

井寄 芳春 大阪府大阪市立
横堤中学校校長
岩岡 正紘 静岡県浜松市立
三ヶ日中学校教諭
上西 好悦 京都府久御山町立
久御山中学校教諭
王子 明紀 兵庫県三田市立
上野台中学校主幹教諭
田村 俊司 静岡県静岡市立
清水第二中学校教諭
時任 秀仁 神奈川県川崎市立
塚越中学校教諭
樋口 大祐 三重県四日市市立
富洲原中学校教諭
平山 裕人 コロボックル学びの家
百瀬 顕正 長野県中学校組合立
鉢盛中学校教諭

特別支援教育に関する監修・校閲者

柏倉 秀克 桜花学園大学教授
丹治 達義 筑波大学附属
視覚特別支援学校教諭